

浜田市議会議長

原田 義則 様

議員名

布施 賢司



## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 平成 26 年 2 月 5 日 (水) ～2 月 7 日 (金)

1. 視察又は訪問先

(1) 大分県玖珠郡九重町 エルランチョグランデ

内容 乗馬施設とまちづくりの関わり合いについて

(2) 熊本県阿蘇市 阿蘇市役所

内容 地域ブランド戦略について、「然」の取組について

(3) 福岡県宗像市 道の駅 むなかた

内容 九州 1 1 3ヶ所の道の駅NO1の売上と集客力の取組と施設見学等

3. 調査経費 31,921 円

4. 各視察先の調査内容

【九重町 エルランチョ グランデ】説明者 取締役 瀬戸年美 氏

当乗馬クラブは、九重高原に位置した、国内最大級の自社所有地を持つ観光牧場。初心者の方々や修学旅行のみな様から、乗馬の上級者の方、老若男女問わず楽しめる乗馬クラブである。社会貢献活動として、障がい者乗馬教室、日赤大分騎馬奉仕団、九州騎馬奉仕団などの活動もしている。

〈1〉視察に至った経緯

金城町の乗馬施設、金城ウェスタンライディングパークは、新たな指定管理者の元、リニューアルされ、乗馬の取組やレストランなど集客と福祉に力を注いでおられる。この施設が浜田市の新たな集客施設として生まれ変わり、地域が活性化する事を願い、先進事例のウェスタン乗馬牧場エルランチョグランデの取組みを視察した。

〈2〉調査項目

① 施設見学[大分県玖珠郡九重町田野 1726-320 ウェスタン乗馬牧場エルラン



## チョコグランデ]

### ② 乗馬施設とまちづくりの関わり合いについて

視察当日は、大雪で周辺施設も観光客が居ない状況でした。そのような中、瀬戸代表を含め数人のスタッフで施設を見せて貰いました。

簡素では有るが、宿泊施設を併設した学習施設として整備され、建物の配置等創意工夫が見られた。

オープン当初、周辺の食事をする所は4軒しか無く、レストランを併設し顧客ニーズに対応していたが、観光客も増え食事処が増え出したので、乗馬施設本来の業務に専念、周辺のホテルへ顧客を紹介し、ウィンウィンの関係作りで地域と共に発展をし、冬場の閑散期は最低限のランニングコストのみで、施設やホテルもサービスを提供する事で、地域と共同体の意識が醸成された。

牧場体験で修学旅行等も受け入れ、ホースセラピーを取入れて、障がいの有る方の様々なニーズにも対応している。

### 〈3〉所感（まとめ）

瀬戸代表の説明の中で、金城の施設は、ウェスタン乗馬の施設としては、日本で行政のバックアップもあるが、他人任せにせず行政のトップがその施設に来なければ誰も来ない。そこに顔を出すことが大事であり、議員も視察に来るのであれば、馬との繋がりをもっと持つべきであると言われた。私たちははたして何度行っているだろうか？利用者増を願うのであれば、自らが出来るだけ多く乗馬を楽しむ人にならなければ人は来ないし魅力は発信できないと強く感じた。また、乗馬する人は高齢者や看護師、学校の先生が多いと聞く。疲れや心の病を軽減してくれる効果があるためだが、高額所得者の利用も含め、的を絞った顧客にも情報発信すれば顧客増につながる。観光客がふらり訪問しても、いきなり乗馬体験が気軽にできる施設であることも訴えないといけない。要するに、いかにPRするかである。それと、金城も障がい者を対象にして『ホースセラピー』も導入するとの事だが、エルランチョコグランデの様な取組をして、地域にとって、なくてはならない施設にすべきであるし、しなければいけないと感じた。

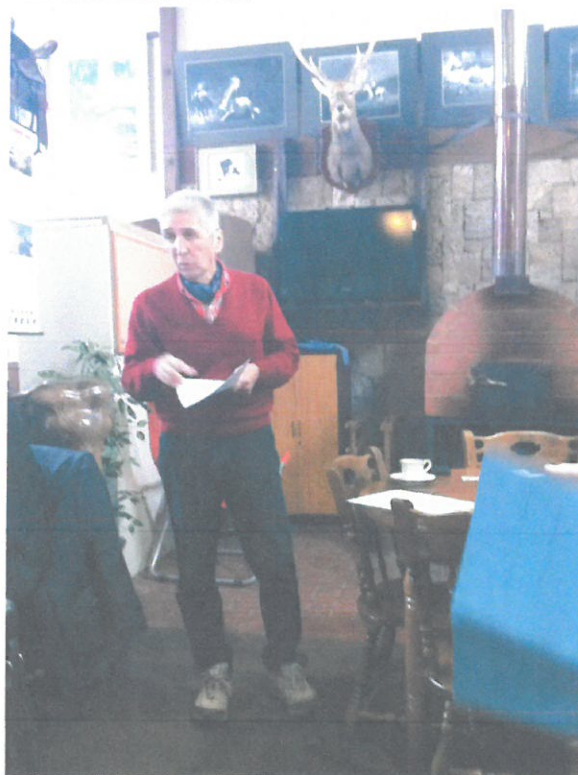
#### 雪のエルランチョコグランデ



優しい目をして迎えてくれました  
(何回かリンゴ1個を持っていけば足音だけでついて来ると聞いた)



#### 瀬戸代表の講演



【阿蘇市 阿蘇市役所】歓迎の挨拶 阿蘇市議会議長 阿南誠蔵 氏  
経済部 観光まちづくり課 課長 吉良玲二 氏  
観光まちづくり課 商工物産係 佐藤祐幸 氏  
クリップ株式会社 代表取締役 曾谷哲朗 氏

### 〈1〉視察に至った経緯

地域ブランド戦略として、全国的にも有名になりつつある熊本県阿蘇市で取組まれている「然」ブランド戦略を学ぶことで、浜田市においても「どんちっち」ブランドやこれから取組もうとしている「山陰浜田港」などにおいて、有効な戦略の確立を目指して、この視察を行いました。昨年の10月より始まった『然』の取組みは、マスコミにも取上げられ、全国から注目される所となっています。

### 調査項目

#### ① 地域ブランド戦略について ② 『然』の取組について

阿蘇市は阿蘇山をかかえ、昔から観光地として多くの観光客が押し寄せていました。

しかし近年は旅行の多様化により、団体から個人へとシフトし入込客は100万人に落ち込みました。阿蘇市観光まちづくり課が音頭を取り、クリップ株式会社の曾谷氏に阿蘇市の活性化と地域おこしを依頼、ものと人に焦点を当て、ストーリーを作り、あるがまま＝然、を立ち上げました。

人との出会い、ものとの出会い、それを風景に織り込み阿蘇市のブランドとして商品にしました。全国から『あるがまま』の然を求め人が来ています。

- (1) 行政は、あくまでも裏方であり、主役は市民並びに生産者。
- (2) 街の原作を作ること、周りの人が自由な発想で阿蘇に来てもらえる。
- (3) 商品ではなく「阿蘇に住んでいる人」「阿蘇で精算している人」をターゲットにしたブランド戦略の確立。
- (4) 本来、街がもっている「力」を発揮できるような「元気」を上手に引き出す対策。
- (5) 行政はあくまでもコーディネートであり、個別の商品販売や個別の販路開拓は事業者が行う。
- (6) 実績ある民間の政策プランナーがいることで、都市部が求めている情報や人脈を活用。
- (7) 全国に認知された後の取り組みの模索。



### 〈3〉所感（まとめ）

地元の間人は今ある地域の宝の良さは何となく解るが、人にその良さを伝えることは中々できていない。その良さを伝えるのは物でなくて最終的には「ひと」である事。それに気づき、その事が宝であることを、民間会社の政策プランナー・曾谷氏の指導のもとで本気で取組まれた阿蘇市には感心した。また、担当者の佐藤さんは柔軟性があり説明の中に自信がみなぎっていた事は、いい仕事をいているひとだなと感じた。今ある地域資源を一回棚卸し整理して、何が魅力なのか何が足りないのか考える時がきているのではないのでしょうか？そうすることによって、新たな宝さがしのヒントになると思いました。そしてその宝を彩りを添えて発信するのは、最終的には誰であれ「ひと」であるという事が改めて分かった。

【福岡県宗像市】株式会社まちづくり宗像 常務取締役 藤岡末英 氏

#### 〈1〉視察に至った経緯

(株)まちづくり宗像、道の駅むなかた（現地視察）

##### ①施設見学 ②開設から現在までの経緯と取組

『道の駅むなかた』は平成15年4月に旧宗像市と旧玄海町が対等合併し新市まちづくり計画の中から、生まれました。

宗像市の商工会、観光協会、農業協同組合、二つの漁業協同組合（宗像、鐘崎）で平成19年10月(株)まちづくり宗像を設立、平成20年に福岡県内10番目の道の駅としてオープンしました。

オープン当初から、予想を上回る来客数と売上で、毎年右肩上がりとなっています。

浜田市において、同様の施設、道の駅夕日パーク浜田と、しまねお魚センターがありますが、近年は客数と売上の減少が続き、厳しい経営状況であります。

道の駅むなかたの経営のノウハウと商品構成等を視察し、浜田と地理的に似通った海山の産物が豊富な、宗像市の道の駅むなかたから、学ぶべきものが有ると考え、この視察を行った。

#### 〈2〉調査項目

福岡県宗像市 道の駅むなかた（現地視察）

##### ① 施設見学

##### ② (株)まちづくり宗像の取組

現地説明者 (株)まちづくり宗像 常務取締役  
駅長 藤岡 末英 氏

〒811-3502 福岡県宗像市江口 1172 番地

TEL0940-62-2715 fax0940-62-3874

##### ① 施設見学



館内〈売場とレジ〉



生産者の写真



鮮度第一の魚〈釣り〉

## ② 事業取り組みの状況

- 基本的に商品は、市内の生産者又は市内で加工された物に限る。
- 生産者と直接契約、会社としては仕入れ無し、委託料 12%〈最大 16%〉が収入源。
- 生産者が直接持込んだ、釣り物の魚と朝採れの野菜、その加工品の販売。
- 商品はその日で完売(POSで売上状況を把握し生産者にメールで通知)、売れ残りは生産者がその日に持帰る。
- 支払いは月末締め翌月 10 日払い
- 毎月各種の研修会を生産者向けに開催、品質の向上と販促に研鑽してい

## ③ 施設の運営状況

- 営業時間：10月～5月（9時～17時）6月～9月（8時半～17時）
- 休館日：毎月第4月曜日
- 売上：平成20年12億8千万円、平成24年16億4千万円
- 来場者数：平成20年139万人、平成24年163万人
- 客数：平成20年63万人、平成24年75万人
- 客単価：平均2300円（他所より1000円高い）
- 購買層：50代以上が半分を占める
- 地域性：市街88%（福岡23%北九州35%筑豊20%その他22%）市内12%
- 部門別売上：水産物37.2%・農産物32.4%・加工品28.1%・他工芸品
- 宗像市に指定管理料として1100万円/年、収益の30%を寄付(平成24年度1000万円)株主に10万円/年の商品券
- 現在利益剰余金は2億円積立

## 〈3〉所感（まとめ）

道の駅むなかたを運営している(株)まちづくり宗像は、風光明媚な「さつき松原」に隣接した所に有り、市内の生産直売と品質、鮮度にこだわった商品構成を行っている。又、カフェテリア方式の「おふくろ食堂 はまゆう」も併設し、人気の一つになっている。

店長は地元スーパー勤務を経験した人を公募で採用しており、商品展示や通路の導線などは買いやすさや、目線の高さなどに配慮した店舗になっていた。

商品の魚は天然物の釣りの魚に限定し2漁協（今年合併予定）160人の漁師と契約を結び、生産者の顔が見える売り方をしている。野菜や加工品もそうだが、生産者自ら価格を付けて、持ち込みまで徹底ぶりで、品質管理についても、抜き打ちの検査をしていると聞いた。生産者はもともと商売はへたであるが商売に徹してもらうことで、良いもの売ることができる。鮮度の良いものは刺身、1こん物で自分でおろしが出来ない人には別料金でおろしをしてあげるサービス、農家に至っては開店8時30分の2時間前の6時30分より場所取り合戦が繰り広げられていて、相乗効果が生まれていると聞いた。まさしく売れる所以がそこにあると感じた。商売は共創と競争である事がこの店舗で解る。

道の駅むなかたの経営は浜田市の2施設にとって大いに参考になるが、誰がどの様な決断でやるのか、やらせるのか大鉈を振らなければできないと感じた。